


再評価結果（平成22年度事業継続箇所）

担当課：道路局 地方道・環境課
担当課長名：吉崎 収

<p>事業名 地域高規格道路 <small>みやぎけんほく</small> 宮城県北高速幹線道路 主要地方道 <small>つぎだてとよま</small> 築館登米線</p>	<p>事業 区分 地方道</p>	<p>事業 主体 宮城県</p>												
<p>起終点 自：<small>みやぎけんくりはらしつきたかくら</small> 宮城県栗原市築館加倉 至：<small>みやぎけんとめしはさまちようきたかた</small> 宮城県登米市迫町北方</p>		<p>延長 8.8 km</p>												
<p>事業概要 みやぎ県北高速幹線道路は、栗原・登米地方の中心都市相互の連携を強化し、地域の活性化および産業振興に資する道路として、東北縦貫自動車道築館インターから三陸縦貫自動車道登米インターに至る約28 kmの高速性・定時制に優れた自動車専用道路として整備をするものである。 事業中のⅠ期区間は、特に事業効果の高い栗原市築館加倉地内から登米市迫町北方地内の国道398号までの約8.8 kmを暫定2車線で整備するものである。</p>														
<p>H7年度事業化 都市計画決定 なし</p>		<p>H7年度用地着手 H9年度工事着手</p>												
<p>全体事業費 250億円</p>		<p>事業進捗率 90% 供用済延長 -km</p>												
<p>計画交通量 10,700台/日</p>														
<p>費用対効果分析結果</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">B/C</td> <td style="width: 30%;">総費用</td> <td style="width: 30%;">総便益</td> <td style="width: 10%;">基準年</td> </tr> <tr> <td>(事業全体) 1.8</td> <td>(残事業/事業全体) 30/300億円</td> <td>(残事業/事業全体) 549/549億円</td> <td>平成21年</td> </tr> <tr> <td>(残事業) 18.3</td> <td>事業費：24/294億円 維持管理費：6.4/6.4億円</td> <td>走行時間短縮便益：450/450億円 走行費用減少便益：69/69億円 交通事故減少便益：31/31億円</td> <td></td> </tr> </table>	B/C	総費用	総便益	基準年	(事業全体) 1.8	(残事業/事業全体) 30/300億円	(残事業/事業全体) 549/549億円	平成21年	(残事業) 18.3	事業費：24/294億円 維持管理費：6.4/6.4億円	走行時間短縮便益：450/450億円 走行費用減少便益：69/69億円 交通事故減少便益：31/31億円			
B/C	総費用	総便益	基準年											
(事業全体) 1.8	(残事業/事業全体) 30/300億円	(残事業/事業全体) 549/549億円	平成21年											
(残事業) 18.3	事業費：24/294億円 維持管理費：6.4/6.4億円	走行時間短縮便益：450/450億円 走行費用減少便益：69/69億円 交通事故減少便益：31/31億円												
<p>感度分析結果 ；残事業について感度分析を実施 【残事業】 交通量変動：B/C=20.0（交通量+10%） B/C=16.4（交通量-10%） 事業費変動：B/C=16.4（事業費+10%） B/C=19.6（事業費-10%） 事業期間変動：B/C=17.5（事業期間+20%） B/C=19.0（事業期間-20%）</p>														
<p>事業の効果等 ・国土・地域ネットワーク構築（地域高規格道路整備区間指定 栗原郡築館町～登米郡迫町 H7.4 9km） ・災害への備え（緊急時の緊急輸送路の代替路線） 他6項目に該当（定量的評価項目含む）</p>														
<p>関係する地方公共団体等の意見 ・沿線の自治体（5市町）で構成される「みやぎ県北高速幹線道路建設促進期成同盟会」より早期整備の要望を受けている。</p>														
<p>事業評価監視委員会の意見 対応方針（原案）どおり「事業継続」が妥当である。 宮城県知事の方針：委員会の意見を受けて、事業継続とした</p>														
<p>事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 ・三陸縦貫自動車道が、平成21年3月に桃生津山IC～登米IC間が開通し、登米ICアクセス県道である主要地方道中田栗駒線も平成21年3月に開通している。さらに、三陸自動車道 登米IC～志津川IC及び唐桑道路にも着手されており、県北部地域における高速幹線道路網の整備は順調に進捗している。</p>														
<p>事業の進捗状況、残事業の内容等 【執行済み額】事業費224億円（進捗率90%）うち用地費：29億円（進捗率100%）</p>														
<p>事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 ・用地難航箇所の買収が平成19年度に完了。現在工事を全域的に展開しており、完成年度は予定より1年早い平成23年度となる見込みである。なお、事業効果の早期発現のため、若柳南IC（栗原市若柳）～国道398号（登米市迫町北方）間について、平成22年度に部分供用予定である。</p>														
<p>施設の構造や工法の変更等 ・現地の調査結果に基づく地盤改良の対策工法の見直しや、橋梁形式の検討による橋長縮小等の構造変更等を行いコスト縮減を図っている。</p>														
<p>対応方針 事業継続</p>														
<p>対応方針決定の理由 ・以上の事業の効果及びコスト縮減等の内容、事業評価監視委員会における審議、知事の方針を踏まえると、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。</p>														
<p>事業概要図</p>  <p style="text-align: center;">H22部分供用 若柳南IC～北方間（延長2.3km）</p>														

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。